

關經抄巻第四

しりたをこのほくひり海つとるれ一夫運の
つりし海つとるれこのまろつりつとるれつとるれ
るれ



前の後とれあ一町分なる尾張(新)と伊勢へ
又く子町の事りなるも大いぞ伊勢尾張の道の
つりつら行りつりつこのまのつりつとるれ
はり女(ニキワラシキ)なるはりつとるれつとるれ
なりとるれ



見らぬかひるやいりつとるれつとるれ
つとるれつとるれつとるれつとるれ
つとるれつとるれつとるれつとるれ

ふかりのいふまじしもの熱しり物とて
 していざりていざ事なりし小野皇^{ウツノミコ}配^{タカクラ}西^{サイ}へとも
 びく時 智^チの原^{ハラ}十^{ジュウ}持^ヂりけくことおなと今
 きはげしやわすのけり舟とていざ若菜^{ワカナ}の奇^キし
 目^メ野^ノのさふいの燈守^{トモ}せくこといざくあつ
 て若菜^{ワカナ}はてんといつあつはりえせし
 ろんあつは燈守^{トモ}せくは案内者^{案内者}なるべしなり
 はんばかられぬぬさなわすのけり舟と
 みるべしせんといふなり
 びく男^{オトコ}の歌^{ウタ}文^{ブキ}一^{イツ}内^{ウチ}のけりいざとあつはれ
 ぬぬとすといざいざとあつはれぬぬとす
 教^{ウチ}寄^{ヨシ}しりまよふなりといふべし
 一使^{ウチ}

の町^{マチ}又^{マタ}いざいざもきくは使^{ウチ}の町^{マチ}あ
 けいよは業^{ウチ}平^{ヘイ}一^{イツ}行^{ユキ}海^{ウミ}使^{ウチ}なりすといふこと
 と人の名^ナいざいざ洗^{ソウ}を^{ウチ}教^{ウチ}寄^{ヨシ}せしなり内
 のいざいざいざいざいざいざいざいざ
 ちよちよ社^{ヤシロ}のいざいざいざいざ
 けいよ人の見^ミましりいざいざ
 拾^{シツ}遺^イ人^{ジン}丸^{マル}奇^キなり ちよちよ社^{ヤシロ}のいざいざいざ
 ちよちよいざいざいざいざいざ
 上^{ウヘ}のけり一^{イツ}地^チなり地^チなりちよちよ社^{ヤシロ}のいざいざいざ
 なるいざいざいざいざいざいざいざいざいざ
 かりいざいざいざいざいざいざいざいざいざ
 ちよちよいざいざいざいざいざいざいざいざいざ

ねこ

急しくいふもたすうらやな

神のいさむらな

上白別の子細ありこひりあふくもはは

神のいさむら道母もわらふなり天のこころ

て隠神陽神となりし神の割るみら

わらすやかる

ひねこ、伊勢の國がら多れ女まこえあ

なりこの國いづくもいづれも娘とぞれ

女とはあまなりものほと同事なりとありの國

尾法なりあゆりこのさき

ねこやのねこもわらふ

うたのこもひかた

大信の浦にねのわらふ

とれねもさやうなり

ゆきもなすやうそのふ

う娘もあれは我に娘

はなすもいづれ

ひねこもいづれ

ひねこもいづれ

ひねこもいづれ

ひねこもいづれ

ひねこもいづれ

ひねこもいづれ

かたのこはたきしそわりろ

月中のうらみ女とてつくりかたりぬたへ
かりうらみ女とてつくりぬたかりひきも
葉の奇かたうらみ例の伊勢の地物流の意也
ひく男女とてつくりぬた

若神とてつくりぬた

わらひ目たひくこいわらう

ふ山可水とてつくりぬた
すわりの我中かた山行とてつくりぬた
てこいつらやかり可葉とてつくりぬた
きりうらみとてつくりぬた
のまじり

ひくたは伊勢の國とてつくりぬた

つらやといふおとこつくりぬた

たはのこはたきしそわりろ

うらみかたきしそわりろ

ふらむとてつくりぬた
ふらむとてつくりぬた
ふらむとてつくりぬた
ふらむとてつくりぬた
ふらむとてつくりぬた
ふらむとてつくりぬた
ふらむとてつくりぬた
ふらむとてつくりぬた
ふらむとてつくりぬた
ふらむとてつくりぬた

此のまゝの神のしるし

我神のまののみらひおぬれをそはるる神のしるし

世にわらふつゝまはらん

おもむき白面也背やたひあひそり一後神のしるし

忍くたり一糸の焚くはく娘はるる一もさふ高

濁しや業平の名巻の事なり神の通し

沈没なりその末源いとのち階氏より家まで

大神まへへあぐさふくはるるのち一揚屋から沈

身なり一文明九丁周よりつゞく五百九十八年也

身なり一元慶元年より文禄六年まで七百

十九年を

びり二条の名のまゝのまののみやとんわとりたる時

氏神よまゝして給ひ多し近湯流るるよりいづれ

を給ねたれ人くろく給ひははれぬく一車より

給りてゝゝしてなり

まののみやとんわの母做と子氏神大原野社

を嘉祥三年用院な土臣を嗣公のつら氏神と

勸治のつれをりあ氏の名をいふかゝりて行啓を

又糸原順子のころく給啓なり近湯流るる業平

比討はまゝの林あゝわさるる一と後ハ極友と記す

りていづれぬれぬかきい物ともすべし但陽殿

院ハ貞観十一年まゝ文よをりて時二歳業平ハ貞

さし物とよのえささうけてたりのまへよなしてさへ
山もあふだりのまへさうこささるるやうみかたを
たれ

田村のみしは^{フクリササ}益号と文^{モシドク}源^{モシドク}天皇と^{ウツツ}なりなふなり
田^{デシ}邑^ニ山^ニ城^ニ山^ニ陵^ニさびみささくにむかひあふなり
して田^シむの^ミ江^ニ門^トと^シなり清^シ和^ニ天皇と^{ウツツ}氷^ニ尾^ニ江^ニ門^ト
と^シなり多^タ賀^カ茂^キ子^コ良^{ヨシ}お云^イの女^メたり文^{モシドク}源^{モシドク}天^{ウツツ}
皇^{ウツツ}の女^メ源^{ゲン}なりい^イりたりなりた^タと^トなりぬ^ヌじたり
安^{アン}祥^{シヤウ}寺^ジ山^{サン}科^カより弘^{コウ}法^{ホウ}大^{ダイ}師^シの^ノ江^ニ才^ニ子^ニ真^{シン}雅^ガ僧^{ソウ}に
の^ノ阿^ア多^タ依^イ順^{ジュン}子^シ建^{ケン}立^{リツ}太^{タイ}元^{ゲン}の^ノ法^{ホフ}わ^ワ然^ニ寺^ジなり順^{ジュン}
子^シ仁^ニ明^{メイ}天^{テン}皇^{ウツツ}の^ノ后^{コウ}文^{モン}源^{ゲン}の^ノ江^ニ母^ニなりたるさ^サし物^{モノ}
折^セ物^{モノ}と^トなり^ニ江^ニ原^ニの^ノ阿^ア多^タ依^イ順^{ジュン}子^シ建^{ケン}立^{リツ}太^{タイ}元^{ゲン}の^ノ法^{ホフ}わ^ワ然^ニ寺^ジなり順^{ジュン}

或^カ令^レの^ノち^チ枝^エに^ニ付^{ツキ}或^カ其^ノの^ノさ^サし^シ物^{モノ}たりと^トなり
く^クして^シけ^ケく^クなりと^トなり山^{サン}も^モあ^アり^リ堂^{ドウ}の^ノま^マへ^ヘに^ニあ^アり^リか
ろ^ロり^リ物^{モノ}さ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなりさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなり
是^ケを^ヲい^イは^ハす^ス中^{チュウ}陰^{イン}の^ノ佛^{ブツ}事^ジ四^シ十^{ジュウ}九^ク日^{ニツ}に^ニあ^アり
て^テ江^ニ原^ニの^ノ阿^ア多^タ依^イ順^{ジュン}子^シ建^{ケン}立^{リツ}太^{タイ}元^{ゲン}の^ノ法^{ホフ}わ^ワ然^ニ寺^ジなり順^{ジュン}
それと^トなりさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなりさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなり
P^ノ海^ノなりと^トなりさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなりさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなり
わ^ワの^ノち^チさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなりさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなり
なりと^トなりさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなりさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなり
なりと^トなりさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなりさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなり

か^カの^ノち^チさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなりさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなり
さ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなりさ^サし^シ物^{モノ}なりと^トなり

かりの石念道のふいと死つと涙成りしを觀たり
 後帝恩ち後日遠ありしと死つる山のし
 せりやいよとくをさるるの業平のめいたるひ
 かりしを

山のふもとにうつくしきふりあふは
 しのつれとよきやかへり

せりあつれと行へんきよきよとてあつり
 うつれとてかへりてかへりてかへり
 物出のよくなると別ひゆもつれとて
 ぬよとてかへりてかへりてかへり
 のよとてかへりてかへりてかへり
 わるへりてかへりてかへりてかへり

又時高に系氣の僧と事なるは時つる海終て
 といひるなり

やまのふもとにうつくしきふりあふは
 そのうつくしきやあつれとてかへりてかへり

那摩の寺の後よきとてかへりてかへり
 月よか也とてかへりてかへり
 まよとてかへりてかへりてかへり
 わるれりてかへりてかへりてかへり
 建立寺や常約貞観六年正月十六日
 十二月十六日右大納言三十一葉平貞観七年三月
 右馬次天安率女法事如行若流道名次
 ひたりたりとてかへりてかへりてかへり

治心くわしきあまのみつと安祥寺めく志りの右行
 藤原の治心くわしきあまのみつと安祥寺めく志りの右行
 まうて治心くわしきあまのみつと安祥寺めく志りの右行
 月こももあの一あのみつと安祥寺めく志りの右行
 て年くわしきあまのみつと安祥寺めく志りの右行
 治心くわしきあまのみつと安祥寺めく志りの右行
 是かまへくわしきあまのみつと安祥寺めく志りの右行
 おりや勅地云女津江四倍下藤原多賀幾子大
 臣良相女赤祥二年女津天安二年十二月四日卒
 常約西二条右大臣良相一男山科之禪師人康親
 王也勅云人康親王仁明第四品彈正尹号山科定貞

観元年正月八日道同十四年薨四十二勅地云
 うり常約貞観八年十二月十六日右大納言三十一
 業平貞観七年三月右馬次より仁とやあり女津
 率八天安二年也此是八年勅地云女津なり此地是後
 追吾れなり云わく云わくや天安二年よりハ
 いはまも後の事なり云々條ははまも後の事なり七
 七日らうひりくわしきあまのみつと安祥寺めく志りの右行
 事親よと人の友かとや一月かたはる事親よと人の友か
 又人康親王と禪師とやうなる事とつう定かたはる
 能くわしきあまのみつと安祥寺めく志りの右行
 だてくわしきあまのみつと安祥寺めく志りの右行
 十三九廿八年とわくも常約右大納言仁とやあり貞観

八年十二月に業平右大臣貞観七年二月とあり
 人康親王出家貞観元年也同十四年薨るるは
 一よりいふ女川の卒するは貞観十二年とあり
 あり程地中可劫之思見云は女川の天安元年十
 一月四日卒するなり一信文傳などにもあり
 業平右馬次も同七年也云々一は女川の卒する
 貞観八年後の事なりとあり

及こゝろひたすべくこれの事一のまじりせむ
 終るはむじたいやもなむなり終るや一又つ
 のまじりなむか紙やいふ二条のたはみゆ
 時々のまじりのまじりなむ

たてられたるまじりみゆの後なむなり一
 のみじりのまじりなむなり一
 終るなむなりなむなり一
 んとあり

大のつてきたるなり終る日
 説才一云思ふてなり方
 直のまじりなりなりなり
 文はるのまじりなりなり
 桑のたはみゆなり一
 清和天皇西三條右大臣良
 朝の百記事なり

のみかり百死亭とてして亭と化りて居ありし
 死と化りてやうふまゝと也也勅云貞観八年三
 月廿二日約幸右大臣使お百死亭に約幸の
 ため又紀伊國の子雲の海石とてなすりふ約
 幸以後主母するのふまゝの化りてのふにすへ
 まうたり海のふに約幸の雲の泉氷とてのふ
 世後へ化れとぬとてふまゝせんあり御洗
 烟霞成痾疾泉石膏育のふと引給りて是も
 衆ふと給ふたり

といふもたしてよとていふのふに約幸ありたる
 ときまゝありしとていふまゝにすへ給なる
 とていふに約幸も世後へ化れとぬとていふまゝに
 衆ふと給ふたり

の化ありしとていふのふに約幸ありたる
 とていふに約幸も世後へ化れとぬとていふまゝに
 衆ふと給ふたり

恩本勅云右大臣依は監右馬次お侍れは監右大臣
 きた大右馬寮右大臣是とていふまゝに約幸あり
 せしとていふ物とていふまゝに約幸あり
 見渡らるるまゝに約幸あり
 けりしとていふまゝに約幸あり
 してかゝるのふに約幸あり
 三 卒の卒とていふまゝに約幸あり
 ありしとていふまゝに約幸あり
 といふまゝに約幸あり

思へんがなほなる背^{セウモロ}なるをばふるのふとら
 のありのくても海是するまふかひきまも岩^{イハ}
 うつくしとてするなりかあはのあうりとすなり
 思^{グシ}思ふは岩^{イハ}なるわが心もあかぬ情^{ナリ}の情
 とてせむんたるのあはれに岩^{イハ}なるあはれとて
 てまうらな^ナとわとわと洗^{せん}しあはれもあはれと
 うみとむらももたらぬあはれあはれあはれとて
 内^{ウチ}の岩^{イハ}とあはれとあはれとあはれとあはれと
 うつくしなるあはれとあはれとあはれとあはれと
 寄^{ヨリ}あはれのまはりのあはれとあはれとあはれと
 思^{グシ}思ふは岩^{イハ}なるあはれとあはれとあはれと
 面^{オモ}面^{オモ}なるあはれとあはれとあはれと

かんよりのあはれ
 ひらうらあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 寄^{ヨリ}あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 かのよりのあはれ

氏^{ウヂ}の中^{ナカ}は親^{オヤ}のまはれはなり在原^{ハラノ}平^{ヘイ}の女^{メドメ}
 腹^{ハラ}に貞^{マコト}敷^{シキ}親^{オヤ}玉^{タマ}むかれたまふと尸^{シニ}をかり貞^{マコト}敷^{シキ}
 親^{オヤ}と母^{ハハ}平^{ヘイ}の娘^{メドメ}なりわがはれはなりはなはら
 貞^{マコト}敷^{シキ}親^{オヤ}のわがはれはなりはなはら
 たきれは業^{ウツ}平^{ヘイ}かりは貞^{マコト}敷^{シキ}親^{オヤ}の八^{ヤチ}歳^{サイ}あはれ
 皇^{ミカド}と舞^{マユ}なる人^{ヒト}なり

我^ワがあはれはあはれあはれあはれあはれあはれ
 かのあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

家門ハ昔門と云義ガリ子孫の竹ハ仙家ヨわり
 竹ハ心慮也也慮業也直ヤしてウーウの括多リ
 王道のらり叶カリ仙家の竹のらひあらやう
 一ノク一ノウレんとあり吾命長遠と祈ル秘洞
 有ク夜冬ハ括多貴瑛ありて人の苦痛ナリ時
 とき夏冬一ノウレノ泥まハ熱もたつ子秋万歳
 ナリんと云ふんガリ

これハ昔門のみこの時の人中おの子とわんつひを
 わふの中細云行平のじとあつてのうかり

業平ぬまの人ガレヤヤと人不安として心
 勤云貞教親王法和弟八母中細云行平女ガリ
 十三巻四十二

びうととらへされ家はあつて人々をさるる
 ありの心とらへその目あつてあるよ人の心
 ちつてなきとらへてとらへて

業平の家と早下していふと古江行平家
 と云ふ不可法則流し人あつてとらへて業平の
 奇ガリ

ぬまはしそ志井とらへて年つらう
 くれはくわしわしとらへて

古今集第二業平朝臣の奇ガリと云ふと
 といふと志井とらへてとらへて
 いふとこれの洞ナリハ流してなり二月の流しを
 ままのあつてとらへてとらへて

ありやうか面白かり梅日とまよひくもわ
とよおととまよひくもわ
なりと梅日とまよひくもわ
まよひ

ひうたのたはまよひくもわ
なりと六条のりよ家とやなり
すまなまよひくもわ
梅ひさるもかりよりみちのらとまよひくもわ
きまらたうまよひくもわ
てたわのりよくもわ
とよひる舟とまよひくもわ
しこのまよひくもわ

てよ免か

たのたはまよひくもわ
大臣元大納言五十一仁和二年
輦車七年八月
つらひのりよまよひくもわ
かしのりよまよひくもわ
院是なり業の花とまよひくもわ
らろひ又まよひくもわ
よるの折まよひくもわ
これのりよまよひくもわ
おのがまよひくもわ

とき紙せりまうれへ回たつてさやまうしうき巻ふ
 やのあつたありのといしうき巻ふの流せひし
 つのやうなれ物つれあふとと只廣縁打と
 心てとるるとい流たりこふしうしうの下の
 やうな親王上達部の下よりわたりふんがり末
 府よりさびかり河原院賊池放頭鯉山住虎根葉
 錦映水鴛鴦副色源順賊蓋雅鑽砂日ぬ瑞波
 葉錦照水時彩鴛鴦赤色同賊水冷池を伏夜松は凡
 有一教秋かやも賊の中ふる朗詠よのせてゆり
 河原院の事の前あもむくくあり都の地地めく
 を第一あくもわつとくわきとて後とせむ也
 志の海よりつらうにらんあつたなり

流すれ舟こふしあ
 ことたんでさの温電ふあつて我らのいふさう海
 の浦よいさふらん流りすれ舟もまよふれとありし
 かへし船よりわたり海を一面白く山岩り益夾り
 見するゆゑ惠崇烟雨蓋鳳坐我漆湘洞在秋喚扁舟
 由去故人道是舟まよふと流りまると同じや古今よみら
 くのいふくわきとさか海の浦ら舟の此をいれ
 とも貴とびを欄の失給ひわとふとくまき
 うらまら海ありさか海の浦らびくもとくわら
 う那里のいふ海ありまその舟のわきと秋のあふ
 のうか海のいふ
 とかんしうき巻ふらのあつたさやまうしうのやし

ねりしりてさしあつておぼろもくろの我門に六十の國の
中へまがらぬとてしりぬるおぼろもくろのさるゝあん
かのねるれさふあんとてしりぬるまよひぬるさるゝあん
やふありたる

比海の上と舟尺すれかりみちのさあつてさるゝこの
業平の限をも進んそてもあつたかたつて
および浦の名譽かりあつても筆者のしりぬるさるゝ
ひりあつてしりぬるあつてさるゝさるゝさるゝさるゝ
ゆさつたあつてしりぬるさるゝさるゝさるゝさるゝ
乃さるゝのさるゝさるゝさるゝさるゝさるゝさるゝ
その時みよのしりぬるさるゝさるゝさるゝさるゝ
ねりしりてさしあつて

惟るのみ、勅云惟る文海第一母後又後上紀勅子名
虎女四号小野文小野まき一海とよらりて後一

小野のまきと一右のこの業平なり
時よひいささかたつてさるゝさるゝさるゝさるゝ
いりぬるさるゝさるゝさるゝさるゝさるゝさるゝ
奇りぬるさるゝさるゝさるゝさるゝさるゝさるゝ
そのぬるさるゝさるゝさるゝさるゝさるゝさるゝ
ねりぬるさるゝさるゝさるゝさるゝさるゝさるゝ
みかすさるゝさるゝさるゝさるゝさるゝさるゝ
とこの名りぬるさるゝ業平の浅友とてしりぬる
やまき奇大和國の勅子演説り小説り安得親王
のよらりて四十のわきまもさるゝ浅友がぬるさるゝ

ついでにふかへ

世の中はたゞてくらゐのむかしは

ふたつにわかれのむかし

古今集の中かたの院にて素平一あがり

見くそり弁の金篇起り紙巻の方なりえ

かきかたの海つらんくはふさくや咲ぬさへ

海はわくわくはくはくの起りしはりつゝ

ろくは雨ふとくはくはくはくはくはくはく

皆極のさへなり世上一極の極くはくはくはく

と云ふはくはくはく

とかなんかたりたれみ人の奇

有常の奇なり

らまはくはくはくはくはくはくはくはく

くはくはくはくはくはくはくはくはく

是、素平のむかしはくはくはくはくはくはく

はくはくはくはくはくはくはくはくはく

極くはくはくはくはくはくはくはくはく

のくはくはくはくはくはくはくはくはく

やまはくはくはくはくはくはくはくはく

ともはくはくはくはくはくはくはくはく

のくはくはくはくはくはくはくはくはく

しつはくはくはくはくはくはくはくはく

なはくはくはくはくはくはくはくはくはく

奇、はくはくはくはくはくはくはくはく

てきくくたりるは

みこは鳥羽に在りては業平初とて居たり

ひりくくくあつたはくく一筆かた

わまのかつくく一筆かたにたり

あのかつくく一筆かたにたり

つれあつたはくく一筆かたにたり

みこ奇とあつたはくく一筆かたにたり

わつたはくく一筆かたにたり

あつたはくく一筆かたにたり

して有常の女をよみてあがらん

いづれにいづれにいづれに

富の人もあはれに

七夕タタラキのいかにあはれに

丹波の人もあはれに

いづれに

いづれにいづれにいづれに

いづれにいづれにいづれに

いづれにいづれにいづれに

いづれにいづれにいづれに

いづれにいづれに

いづれにいづれに

古今第十七の巻のついでに

ちとねにいづれに

なりぬいづれに

いづれにいづれに

いづれにいづれに

いづれにいづれに

後撰の巻の上野家雄ウノノケノヒロユキの巻

いづれにいづれに

いづれにいづれに

いづれにいづれに

いづれにいづれに

いづれにいづれに

のみかり寛平法皇の仁和寺より一函を石濱も
 照平にPしてしよPを家なりはましくと物態一
 きては洞も教なりめびおん様もはひと一して
 見家にま下の事なりおひひそのおのよく宮のさ
 く海らるるをや一らみひらうありらる一由
 して海をほほしく一おむがらる一太この人女も
 わるべしよは子風流かり一おの世はそむし
 流ふはひのららるるをさうん一とまよてめらる
 ことおかりあり一人の事たれひおく一と水
 漱か一入帯一あり一うし一ひらう入お病一して
 書中一しものりた一海と事一を教一おれひ

けいせいのあがる一梅もさうひく一うあつたの
 まし一おまをながれも業平と清和門へはく
 なま一いあまもあまも一はひひのりおなり
 事一も名技のあま一は書一なて海ふ心おあり
 寛孝法下一この法と清く一おあ一と海せ
 ねかつて一守り守り寛孝とあせん一と徳ひ
 照と一おまも一とひひはく一と海せなり
 一と一おまも一とあひひひ
 雷のついでと海せなり

ことすまへくは愛をたねひ
 えとは結よはひと下一とあま一めす一とあまひ
 用者画柄のはしとあまおと書あまてとあま

ねんふらうとかなる（聖教）愛しも里の名のやゆふん
 雪も泣か死をばくひら 憂がもゆつたをん
 うんせとふもじつらんやんやんそくわしんは推
（多）言のひびきとP結より新古今小入道（三）蓮院殿（カ）勅（モ）地
 よび舞とまへてそめりなりされいひこせくもる
 一もつ後一さかされもがゆたれひここのめ
 四五并と拍笄の北者のうゝ高か業平の奇ある
 わたんかうさゆへめしんしん

ひーねとこまかりかひら一たうもさうめんまや
 たりそのうとちうかういふおにすいほひふ子に
 京一と文流へへくれいひしづとて事のまてとまへ
 えてしとてひらつこまへまをれいひいあう志結

ひらり

業平のとしらわらある心しむはし不業平の自記
 忠くをり力ハ（ウ）職一あがも母人えかるとく伊
 豆内親王の（ツ）正事かると子ハ京よとむけへ業平ハ
（チ）約あよなまかりひらつと業平ハ兄弟又人かを
 何保親王の（フ）正子ハははれも伊豆内親王の（ク）版一
 とも業平一子かをれ

うねよとてんむらりよまの事しんはわらつたと
 けううくむらりよ事かならむ
 どののゆめとむらりあり歌の字をたね海うくた
 せい孝子の海がらちとわがあしんや
 むねむらりむらりわりのわらひん

いふくはまきしゆしむる也

うぬ別母常のなほひそきぬ道打のこ不辨

よまの癖穢はかしてうぬはなれもむねのい

かの子つらう打たれくもあは

勅云伊豆内親王貞観三年九月薨

世中よきぬ別母のなほひそき

ふたりいふかの子れこ免

我一月のくんとおひりよして世間へひくとえなり

免するこつ事のかくもわまう一切はせの子

えらふとあつたはよかんとかなりひうらも我も

剛こもれ目連の我母のふも孟蘭盆とゆま

是は同んがり

ひうたをいさなりつらわははらまひのこさる君

はうたをいさなりつらわははらまひのこさる君

をすしつらり車由さつてちかすけんかたさく
色ニ居人たりホサニ神カミの沙シ波ハ津ツ也コト唯コト高タカの沙シら
たつたまもすしつらりし神カミの沙シ波ハ津ツ
しつらりし神カミの沙シ波ハ津ツ
たつたまもすしつらりし神カミの沙シ波ハ津ツ

言のはりつとそまて海なり
初ハジメの思オモひニあがりし源ヒナ末ノ橘キツ元ノの事コト
真マコトの思オモひニあがりし源ヒナ末ノ橘キツ元ノの事コト
初ハジメの思オモひニあがりし源ヒナ末ノ橘キツ元ノの事コト

あつた思オモひニあがりし源ヒナ末ノ橘キツ元ノの事コト
あつた思オモひニあがりし源ヒナ末ノ橘キツ元ノの事コト
あつた思オモひニあがりし源ヒナ末ノ橘キツ元ノの事コト
あつた思オモひニあがりし源ヒナ末ノ橘キツ元ノの事コト
あつた思オモひニあがりし源ヒナ末ノ橘キツ元ノの事コト
あつた思オモひニあがりし源ヒナ末ノ橘キツ元ノの事コト
あつた思オモひニあがりし源ヒナ末ノ橘キツ元ノの事コト
あつた思オモひニあがりし源ヒナ末ノ橘キツ元ノの事コト

今もしてよき人せむわ
よのうとてくしのくわに

若年の音うねり
あつ年のいねきいふく
忘れぬいふまかり

としてふりたりわ
うかんとむりく

おろるねえはく
糸石をむの回をく

ひうたははの國
あつうしていふ

と志来入溪和かめ

わのやのな
はのりといふ

ひ奇と昔の奇
七雜奇中一業平の奇
の成るまじ細く
め奇とと
そこのけたる
かり奇なり
ひ奇とわ
ひ奇と
業よ志愛の
わと

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

是地流の絶者の...
 道...

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

きりぎりすの音にやうにみまの音にやうに
あつきのついでに

い男もあはれはくへくへいお葉平の自然とえ
えりりあまのいほくへたりやうにわえぬと
いなりも信和の時より信和のすけりた門督共
あの子の門督もなり常平のあかりい男
のこのうも行平の葉平の見たまのいなるも平
とた門督の時より一思見在東の平貞親十四
年八月廿又日奉添して将た門督五十七同十
六年等とてやうにやうにの山ありともわれと物
のあつきのついでにやうにやうにとてついでに
いさこいさこいさこいさこいさこいさこいさこい
いさこいさこいさこいさこいさこいさこいさこい
いさこいさこいさこいさこいさこいさこいさこい
いさこいさこいさこいさこいさこいさこいさこい

秋の八ノ月

草のやのいさこいさこいさこいさこいさこいさこい
川の鮎を池物とわたりたりとあつきのついでに
洗もつとぬいさこいさこいさこいさこいさこい
うへりのかきささくえつたりとて二十天廣さあつ
やうにささく孫彈の天台山の賦より極なりいさ
をいさこいさこいさこいさこいさこいさこいさこい
をいさこいさこいさこいさこいさこいさこいさこい
一折なりあつきのついでにやうにやうにやうに
我世のいさこいさこいさこいさこいさこいさこい
おのこのいさこいさこいさこいさこいさこいさこい

わがうち命のちかちかちかちかちかちかちかちか
あつきのついでにやうにやうにやうにやうにやうに
あつきのついでにやうにやうにやうにやうにやうに

わたりなみちをゆくてむせしき内よりらう
家のまへは日くればおもしろいことやまは
わすのいふまへはたむけいさゆるものありの
ねとむ

布引のいさやわりのちの里へいさゆるりなりかん
こと多し所とたうふまのりもあつてもいぬ
ちりま内よりちりうゆりのなれん氣品よらん
と流介スレシモシ若杉は身かたはぬて家かた
他つらまはるうゆつらう道きとと程よとわれ
家とらんくはは流人の家きととついでい
流人母と日のはるうなれん物流の流精也
徐徳宅ヨシノカタクへ湖水東をくま中よまゆるりか

たりぬらま事なりとわつて一公業年也

いふ所の早う河巻のほつらうと

我もむじこのわりのなれん火

晴天のほつ又河巻カハベの螢ホタル我はほつ螢のたつ火
ういならぬ宵セラモシやまるといふはそとつら又文字
弁ヒヤの致チヤよなる也たあまのりかといひくは
なつらういふのりうといふる海をかう又文字や
いふり中央チウヤウいふも同ドウ奇キ矣イたりおとやん
てはつら河巻のたふわうのたひひとカサ
かうは流リウくは奇キありたりわつられもこう
かうかうと致チとむじこのわりのたつ火かた
折セせりわつから宗祇ソウキはらうかうなれん也

とわらと わら風のあさわけのうたてはあさく
いそあわわらうたのうたうたわのやうわら
やまうたわらたたりひきとひきうたわらえ
けい

とまて家よわらうたの南の風あさく
いそあわわらうたの南の風あさく
みるのわらうたの南の風あさく
いそあわわらうたの南の風あさく
かきとわらひてあさくうたの南の風あさく

家よわらうたの南の風あさく
風あわわらうたの南の風あさく
てまて家よわらうたの南の風あさく

とわらと わら風のあさわけのうたてはあさく
いそあわわらうたのうたうたわのやうわら
やまうたわらたたりひきとひきうたわらえ
けい

この際と母のうたの南の風あさく
いそあわわらうたの南の風あさく
てまて家よわらうたの南の風あさく

の中人の奇也くはあまのつやたつたや

是ハ伊勢の海なりわしやされはの中人くはつと批
判する月なり抽は有餘不足くも抽なりけり
さしごとかり双紙地とせばひひしきるんかり

ひしきつとふんあふぬれまきともんちともあつ
まらしてねどんをまらち中よひとわ

中年よりつと中年よりつとあふらかりまら
中よひつりの業平や

ねらふ月ともちてしとれまら

けりまら人のむしなるり

ひ又文字やふらぬれなり十の抽七八と云んて
ねらふも貪るるんりむじかりたつても

紅紫あくも又人のよはくも急おあつてハいつと

なるもはまはくもゆへらも力を換するりのさ着るハ

あぬと云ねは年あめて抽のあふもいつくもそえ

すまらつと云んりもあせつ奇かり月あも

あまらと貪してしれあつと云ね力もあつりた

云常とも親せししてしあもね生と送りく

て終もむとるねよのまらてしと云んかり

月とももの字よんもはくへし白樂天透内侍

詩月明眞魚対事機志年損悪款色一はのりま

ひしきつとふんあふぬれまきともんちともあつ

ねらふも貪るるんりむじかりたつても

きんもなやとが死にかたし

へんれいひきこひしあはれならん

ひのまの針よあな名おぼせし

ぬかたおのいひへいひあはれなる針のたぐ

あく死たつそと針よが死ふとやわよせんと

かたし極もくさぬいひいひいひいひいひいひ

ひらきまらふなり

ひいひきか死んといひいひいひいひいひいひ

きとやあひいひいひいひいひいひいひいひ

たつと足かしくいひいひいひいひいひいひ

おひあつちとらる極うつし

はきかなん人あひいひいひいひいひいひ

極死かたしうのいひあつち

わあいのいひあつちのいひい

わとあつちとらるいひいひいひいひいひい

いそひいひいひいひいひいひいひいひい

えかりあつちのいひいひいひいひいひい

事と如くあつちのいひいひいひいひいひい

いひいひいひいひい

ふらちたのいひいひいひいひいひいひい

るいよと毎日なる伊勢の河を推量なるん世

ひいひいひいひいひいひいひいひいひい

ひいひいひい

ひいひいひいひいひいひいひいひいひい

日田のついでに...
 海はなから...
 あつたあつた...
 打...
 後撰^{ゴゼン}第...
 夫...
 人...
 月...
 河...

別...
 夫...
 中...
 夫...
 夫...
 夫...
 夫...
 夫...

ついで

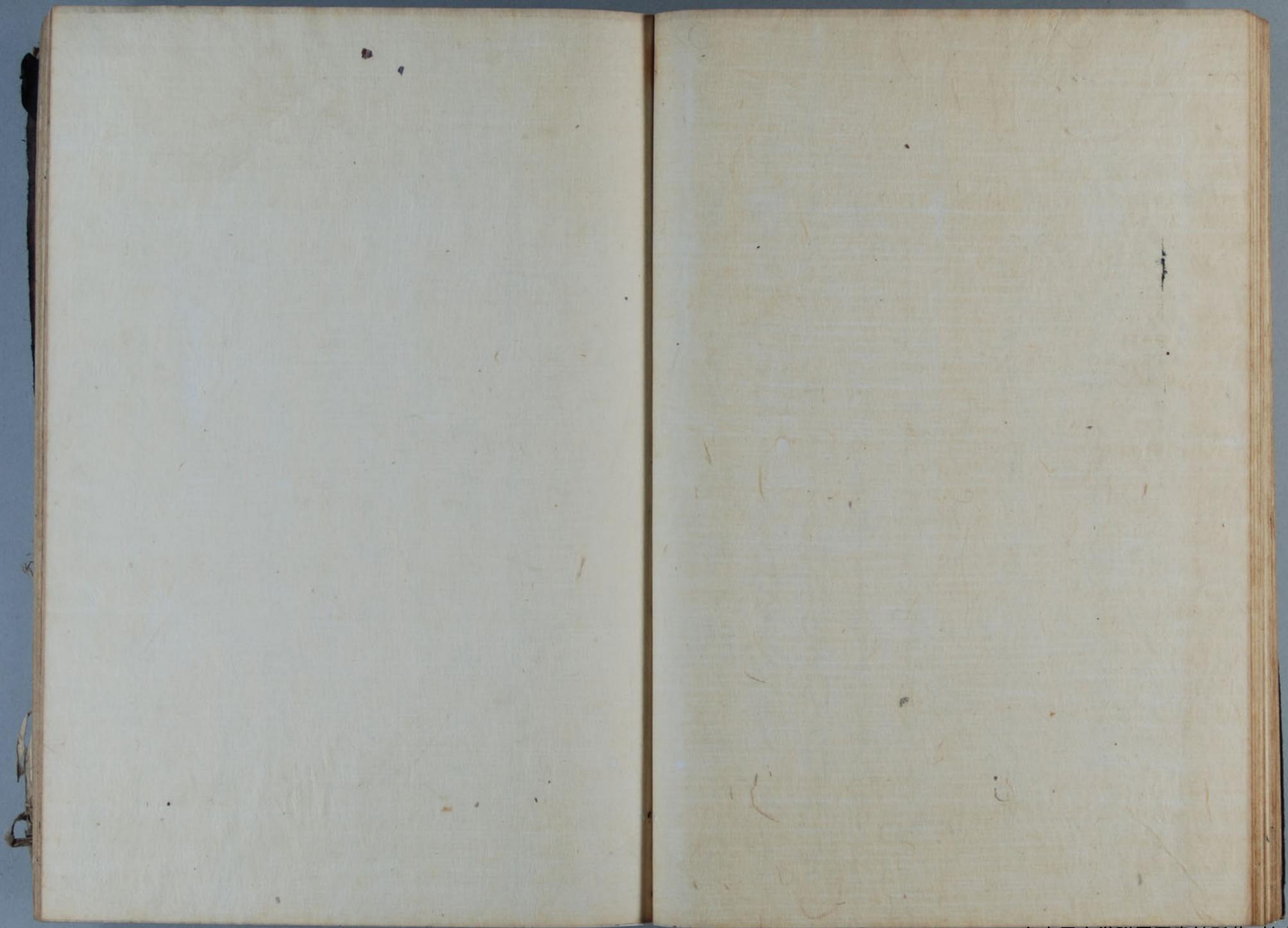
ひしねのいのちのしるしとしていふゆゑに
いふゆゑなりとてなほいふゆゑなりと
いふゆゑなりとてなほいふゆゑなりと
いふゆゑなりとてなほいふゆゑなりと
いふゆゑなりとてなほいふゆゑなりと
いふゆゑなりとてなほいふゆゑなりと

わがまゝに
たうらや

天孫の御母の御名はあはれとて教とせりたひ
念の御母の御名はあはれとて教とせりたひ

ことごとし事もさういふは必^ス教とせむとていふは
ことごとし事もさういふは必^ス教とせむとていふは
ことごとし事もさういふは必^ス教とせむとていふは
ことごとし事もさういふは必^ス教とせむとていふは
ことごとし事もさういふは必^ス教とせむとていふは
ことごとし事もさういふは必^ス教とせむとていふは

よの世もかくわかれいふよの世もかくわかれいふ
よの世もかくわかれいふよの世もかくわかれいふ



関疑抄第五

じつにたむあつたりもつらんそのねとこす飯とぬ
 さら後したとこされと子中なりたるこま
 かいとうわつ神の時つゆひとせたるせうこ
 急いふかりたるひさしやまらるといふのねと
 の物とていひひひひとせたるりかの男素平
 いとけいこあやゆらふとまてたまひ
 しとつるをわたりて他人の根とけらるのよ
 かんあつたけいこつてしてゑれつる
 町の秋よかんさるけ

其男は海とぬより素平の女と離れしうかり
 後したとこされと他人に嫁するも其の腹の

ようの事いふ人の男の方へいひつゝいふ事いふ事
 の人あれたとていふ事いふ事いふ事いふ事
 なる事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
 りつゝの事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
 事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
 流りつゝいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
 してつゝいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
 秋の事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
 の事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

秋の事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
 かり秋の事いふ事いふ事いふ事いふ事
 ゆかりの事いふ事いふ事いふ事いふ事

秋の事いふ事いふ事いふ事いふ事
 かりの事いふ事いふ事いふ事いふ事

秋の事いふ事いふ事いふ事いふ事
 かりの事いふ事いふ事いふ事いふ事

秋の事いふ事いふ事いふ事いふ事
 かりの事いふ事いふ事いふ事いふ事
 秋の事いふ事いふ事いふ事いふ事
 かりの事いふ事いふ事いふ事いふ事
 秋の事いふ事いふ事いふ事いふ事
 かりの事いふ事いふ事いふ事いふ事

あぢの御中へ抱がなれんはよふはるに
悲しきながら七夕はよふはるに
あぢの御中へ抱がなれんはよふはるに
いし事はなれんはよふはるに
あぢの御中へ抱がなれんはよふはるに
いし事はなれんはよふはるに
あぢの御中へ抱がなれんはよふはるに
いし事はなれんはよふはるに
あぢの御中へ抱がなれんはよふはるに
いし事はなれんはよふはるに

いし事はなれんはよふはるに
あぢの御中へ抱がなれんはよふはるに
いし事はなれんはよふはるに
あぢの御中へ抱がなれんはよふはるに
いし事はなれんはよふはるに
あぢの御中へ抱がなれんはよふはるに
いし事はなれんはよふはるに
あぢの御中へ抱がなれんはよふはるに
いし事はなれんはよふはるに
あぢの御中へ抱がなれんはよふはるに
いし事はなれんはよふはるに
あぢの御中へ抱がなれんはよふはるに

秋のけしきをいふは
 秋の葉のしづかに
 秋の風がささやく
 秋の空がひろく
 秋の月がまぶしく
 秋の夜が静か
 秋の朝がさわやか
 秋の夕がほろり
 秋の雪がふり
 秋の氷がたまる
 秋の虫が鳴く
 秋の鳥がさえずる
 秋の魚が泳ぐ
 秋の草が枯れる
 秋の木が落ちる
 秋の山が静か
 秋の川が流れる
 秋の海が静か
 秋の空が青い
 秋の空が白い
 秋の空が赤い
 秋の空が黒い

秋のけしきをいふは
 秋の葉のしづかに
 秋の風がささやく
 秋の空がひろく
 秋の月がまぶしく
 秋の夜が静か
 秋の朝がさわやか
 秋の夕がほろり
 秋の雪がふり
 秋の氷がたまる
 秋の虫が鳴く
 秋の鳥がさえずる
 秋の魚が泳ぐ
 秋の草が枯れる
 秋の木が落ちる
 秋の山が静か
 秋の川が流れる
 秋の海が静か
 秋の空が青い
 秋の空が白い
 秋の空が赤い
 秋の空が黒い

ことよらんをりひり事のはりりらとくま
 ころく人のあつこくいよとく海へゆりくは
 くるゆらちしやそれとわりのさうしうらとこ
 へ 大離芥命 自有海幸 弟を出現する自在山幸
 定家の事と多くも海幸 ことのあつわりの
 さうしうらとくまの葉はつみりあつとこ
 川幸もわそとせりは流しは右の通さるさめさ
 事りなりそれはお侍の流る蜜のうらとくさう
 海原のさうしうらとくまの葉はつみりあつとこ
 ことよらんをりひり事のはりりらとくま
 さうと打てよめの底へつとくまの葉はつみりあつとこ
 の奇合は後成のわりのことよらんをりひり事のはりりらとくま

ことよらんをりひり事のはりりらとくま
 ころく人のあつこくいよとく海へゆりくは
 くるゆらちしやそれとわりのさうしうらとこ
 へ 大離芥命 自有海幸 弟を出現する自在山幸
 定家の事と多くも海幸 ことのあつわりの
 さうしうらとくまの葉はつみりあつとこ
 川幸もわそとせりは流しは右の通さるさめさ
 事りなりそれはお侍の流る蜜のうらとくさう
 海原のさうしうらとくまの葉はつみりあつとこ
 ことよらんをりひり事のはりりらとくま
 さうと打てよめの底へつとくまの葉はつみりあつとこ
 の奇合は後成のわりのことよらんをりひり事のはりりらとくま

より宇賀九条の家とてとれり月中めなりと云

にふれ

勅^シ擢^シ云^ク照^ク宣^セ云^キ基^キ治^ツ貞^ツ親^シ十四年八月廿一日右大
臣^ニ大^ニ約^シ三十七貞親十七年四十歳業平十九年心
十五任中^ニ將^ニ四十^ハ亥^ガ堀^ノ河^ノ右大臣家九条有^ニ四^ハ
咲^ガ不^レ實^シ貞親十七年也中めば時業平未中め
は^レ世^ト後^ニ擢^ガ官^トと^ハけ^ルる^カる^ハ一

さう^ニ死^スら^レの^トか^ハい^レら^レれ^ハお^ハひ^レの
あ^ハん^トと^ハふ^カち^ハあ^ハら^レる^ハ一

古今集第七巻の一首よりとりりひつらん
ありくつひもあはれやうよわきしとむの
さ道のまゝもや中めりあはれまのま

目の^ハあ^ハと^ハ自然^トよりせとあるを後^ニあ^ハる^ハも
自然^トよりあ^ハる^ハま^ハら^レる^ハ面白^クと^ハ評^スら^レる^ハ一

ひ^ハに^ハは^レさ^レた^ハか^ハい^レま^ハし^レら^レる^ハと^ハや^ハゆ^レら^レる^ハ一
は^レう^ハま^ハの^ハあ^ハら^レる^ハなり月とらりあ梅の^ハは^レく^ハま^ハね
よ^ハう^ハと^ハつ^レけ^レく^ハち^ハを^ハく^ハち^ハの^ハあ^ハら^レる^ハ一

太^ク政^ス大臣^ハの^ハ忠^ニ仁^ト也^ハ勅^シ擢^シ云^キ忠^ニ仁^ト云^キ天安元年二月
十九日太^ク政^ス大臣^ハ五^ハ十^ハ又^ハ四^ハ月^ハ九^ハ日^ハ從^シ一^ニ位^ト二年十一月
擢^シ改^シ法^シ外^ニ祖^ト同^シ二年^ハ清^ク和^ク天皇^ハ九^ハ歳^トして^ハ位^トは
改^シせ^レ給^フ可^ク擢^シ改^シ一^ニ位^トは^レつ^レて^ハ貞^ツ親^シ十四年九
月^ハ二^ハ日^ハ薨^ス六^ハ十^ハ堀^ノ河^ノの^ハ太^ク政^ス大臣^ハも^ハ又^ハ清^ク和^クの^ハ一
と^ハなりや忠^ニ仁^トの^ハ益^トなり良^ク房^トは^レつ^レま^ハる^ハ男
業^平忠^仁の^ハ家^ハ礼^ハを^ハれ^ハる^ハ一

秋の母を慕ふふゆにわが心

叶しつゝありのあそわのさくら

花の枝とよみりとあつ月の梅のさつめか上北とえ

はつしつゝあつめとあつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめ

是のよみりと忠仁と祝友よあつめつゝあつめつゝあつめ

花もさつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめ

雑草上とあつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめ

かつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめ

奇の草かつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめ

とあつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめ

とあつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめ

とあつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめつゝあつめ

ひつと感して使はれんを語へたり

ひつと右邊の馬場うまばたのひつりの日びつ井いづたたくさり

を馬車うまぐるまの下の下とてこれらもわのうふんを

まの中ぬからと馬うまにたこのまとしてあつめ

ひつとこのひつ井いづのひつ雑雑草雑草とてあつめ

ひつと秘ひみつするひつ事こととてあつめ一糸ひともひつ文ぶんの

ひつと右邊みぎそれらとあつめ右邊みぎ也なり水野みづののあつり

右邊みぎからと毎年まいねん又また月つきとあつめひつひつひつひつ

ひつとくたむを来きたつひつひつ馬うまとあつめひつひつ

かろと三月みづかいた邊へわつてひつひつ四月よしかの右邊みぎのわつ

てひつひつひつひつひつひつひつひつひつひつひつひつ

ひつひつひつひつひつひつひつひつひつひつひつひつ

板の心持もさういふ事なりと云らば
 かねていひのこしうたふべきや大和物語に
 きよみ平一おぼしむるもそれと云ふ
 悉くあはれなかつたものなりやと云ふ
 こととして古今うたふぬの事と云ふこと
 こそよき事なり

のらふ事と云ふ事なり

後よわひたつたなり
 びうねと云ふ後涼殿のこゝへと云ふ所なり
 んと云ふ人のいへはひひと云ふ事なり
 さと云ふ事なり
 後涼殿のこゝろの方より云ふ事なり

も後涼殿と云ふ事なり
 しぬ殿のわきいなりやんといふ事なり
 かねていふ事なり
 ともか紙書なり
 昔より書きたる事なり
 書きたる事なり
 名を云ふ事なり

りたれまむ高麗へはみあらし
ふはふのふかりのちもたのまん

それのこは忘れきれぬもあかしやうんといふあり
こなるいれもあひいせうたれまふたあつとまは
悪事かり後とてたふのまんといふあり

びう右共志増かりたれわのこころのゆひひつとま
わのこころい人の家よこころはあつとまてまうこ
ろ右中并あ原のまらちあつとまなんまらちや
るねあつとま日あつとままらちあつとまらちけわの
人あつとまらつとま記とせりこ記のたふあわらつとま
あつとま記とせりこ記のこひこ人あつとまらちあつとま
るるそれと記とせりこ記とせりこ記とせりこ記とせりこ記

まらちかろわらつとまらちかろわらつとまらちかろわらつとま
らちかろわらつとまらちかろわらつとまらちかろわらつとま
ひたれと志あつとまらちかろわらつとまらちかろわらつとま

行平兼平の兄なりぬさちの勘云あ原良通貞親十
二年正月右中并十六年持右中并三代貞禄才二
十七り傳有神祇伯位五位下兼濃權守貞親十七
年九月九日卒父太宰權仲正三位吉野弟四男也
傳別在之字文かといはかりつとまらちかろわらつとま
て改の道り運つとまらちかろわらつとまらちかろわらつとま
らちかろわらつとまらちかろわらつとまらちかろわらつとま
僅る樂り一善柳の志あひとまらちかろわらつとまらちかろわらつとま
とも云かりつとまらちかろわらつとまらちかろわらつとまらちかろわらつとま

窮いくまうのち中井上首也くまひのかりとる
 だうへはわらわらるるもまへ一上一わたりて改通の
 のへ年サシジわつとくく一わらまひる人へ由さちるむと
 めのくまう皇女とのくまへり内へくまうとくま
 人の悪かりわつとくまへり平の餐サシミ能かりわつとく
 とくまへり平のわつとくまへり平の餐サシミ能と
 やつとくまへり平のわつとくまへり平の餐サシミ能と
 業平の自記とくまへり平の
 少く記の志にへり人となわつとく
 ちうへくまへり平のわつとくまへり平の
 友原忠仁の業記一門とくまへり平の
 友の下の色をくまへり平の池水

かねかへり平のわつとくまへり平の
 くまへり平のわつとくまへり平の
 いかたねへり平のわつとくまへり平の
 そまへり平のわつとくまへり平の
 けい平の趨向カウとくまへり平の
 そまへり平のわつとくまへり平の
 けい平のわつとくまへり平の
 てるりなれ

むとものしるありぬ奇とぬん人の有ぬ常
 とつ世のころりも勅弁して教戒のこ
 したから天下の治ももつ事や古今
 の序ふいことりゆ物りれ奇とぬり
 多ふとゆひの人傳として礼法道理とま
 るかんとされん人の心なきことり奇と
 ぬんより天地とことと徳のありぬや
 されぬ舞の道に義礼智仁とつことり
 多ふから奇とぬんかゝる必道理とぬ
 と云ふぬ奇とぬんも世のころりも
 ぬんと云ふぬ奇とぬん親族なりと
 とつことりも白^{チツ}他人ぬもか記かゝる心

とのころりもて屋敷からよは^{サイクワ}名とぬ
 せりゆとわいなり中なれ^{シツクワ}親族なり
 をしてと云ふぬ奇とぬ物あれ
 のころりもと云ふぬ奇とぬ物あれ
 わまにかりもと云ふぬ奇とぬ物あれ
 ことと云ふぬ奇とぬ物あれ
 山屋より入つてと云ふぬ奇とぬ物あれ
 多ふ世と云ふぬ奇とぬ物あれ
 屋敷なり秋文の世と云ふぬ奇とぬ物あれ
 やふかり

やなんのいありたる秋文の文なり
 背^{セウ}文^{モン}は是は伊勢が云葉なりとわつ

びしねとこもなりいとまありしちりしりかてわらわ
んかろりたりやうさのみとよたんはふまひつとろ
り流わやまらやまらりらん足こたりのけいけい
々商人とわいりりりりり

是も業平かろりまめしちりしりしりしりしりしり
事とまろりりりりりりりりりりりりりりりりり
しりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
かたありやうさの仁明天皇とりりりりりりりりり
後山祓禊草の足さるりりりりりりりりりりりりり
云かりしんわやまらりりりりりりりりりりりりり
程よんわやまらりりりりりりりりりりりりりりり
川子文流先考お天自かろりりりりりりりりりりり

い流の心い母ももるりり
祢わらわの言とろりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

古今集第十三へんりりりりりりりりりりりりりり
をいりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
の言れりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
めりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
やかんよんりりりりりりりりりりりりりりりりりり

業平の自記とんりりりりりりりりりりりりりりり
目へあはらりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
をわらわらりりりりりりりりりりりりりりりりり

しつゝあはれなる事なしてわまたにかれあふまらりわ
をらとや流しされしものやゆいりらるんがりのまらり
見よむらりな流しとたしとて一舟にまて流り

及よかあはれそ子細まきくむりひいり物方と日足ハ
何のいふれもわしてわまたにたのしみ道の道とま
かちらと流しされしものや流しるまらるんがら
とや流しなとす人を見物ととさめらるんわ
わらり

世渡りこのあはれと一人とらるんがら
わらりせむもまのまらるんが
わらり海人よとせとらるんが海人の流し物
わらりせむとらり世とらるんがわらりなれま

人とや流しとらるんがとわらりせよとわらり
くまは目と目ととわらりせむ流しするんわらり
またのじちるもあ方とわらりせして同心がら
わらり

これの流しとらるんが物見流し多る車とわらりやくたりま
まはかんさして流し流しはまらりいあん
飛しと思ひと見さして流しと流しふたつ
せうとわらりかして流しとらるんがとらるんがわらり
目流しとらるんがとらるんが流しとらるんが

わらりわらりいあんわらり
あはれ流しとらるんがとらるんがわらり
見よかたれとらるんがとらるんがわらり

とつりたれいやはかりーとねのひたれとんーのいせ
さつとるり

かみーの河海ー^{カシ}控目^{カシ}中^{カシ}泥^{カシ}之^{カシ}礼^{カシ}とーびあふ人と業
年の志いふまで程迄と捨たぬひんあけきた志ハハ
まー水ぬとこぬじ思ふたひもさるれも^{カシ}泥^{カシ}泥^{カシ}泥^{カシ}
白髪^{カシ}の字^{カシ}れい^{カシ}を^{カシ}か^{カシ}う^{カシ}んと云わまのよ^{カシ}粉^{カシ}外^{カシ}う^{カシ}は
りーも心さーハハやまーよ^{カシ}おの^{カシ}と^{カシ}あ^{カシ}る^{カシ}ん^{カシ}さ^{カシ}かり^{カシ}
ゆ^{カシ}ゆ^{カシ}

ひー^{カシ}に^{カシ}と^{カシ}思^{カシ}こ^{カシ}ら^{カシ}の^{カシ}せ^{カシ}り^{カシ}し^{カシ}流^{カシ}か^{カシ}り^{カシ}ま^{カシ}
てい^{カシ}ら^{カシ}る^{カシ}門^{カシ}の^{カシ}な^{カシ}り^{カシ}ま^{カシ}て

子^{カシ}早^{カシ}振^{カシ}神^{カシ}代^{カシ}も^{カシ}さ^{カシ}か^{カシ}と^{カシ}ら^{カシ}る^{カシ}行^{カシ}
か^{カシ}ら^{カシ}れ^{カシ}か^{カシ}井^{カシ}よ^{カシ}水^{カシ}を^{カシ}あ^{カシ}ら^{カシ}ぬ

古今^{カシ}弄^{カシ}丸^{カシ}りー入^{カシ}を^{カシ}り^{カシ}洞^{カシ}中^{カシ}小^{カシ}二^{カシ}条^{カシ}の^{カシ}底^{カシ}の^{カシ}云^{カシ}文^{カシ}
の^{カシ}こ^{カシ}や^{カシ}止^{カシ}本^{カシ}と^{カシ}り^{カシ}名^{カシ}海^{カシ}時^{カシ}よ^{カシ}は^{カシ}岸^{カシ}同^{カシ}よ^{カシ}立^{カシ}田^{カシ}川^{カシ}小^{カシ}り^{カシ}
ら^{カシ}か^{カシ}ら^{カシ}れ^{カシ}ま^{カシ}ら^{カシ}る^{カシ}と^{カシ}か^{カシ}ひ^{カシ}つ^{カシ}と^{カシ}起^{カシ}り^{カシ}て^{カシ}し^{カシ}あ^{カシ}か^{カシ}紅^{カシ}葉^{カシ}と
の^{カシ}か^{カシ}り^{カシ}ま^{カシ}て^{カシ}と^{カシ}ま^{カシ}り^{カシ}あ^{カシ}か^{カシ}と^{カシ}し^{カシ}紅^{カシ}葉^{カシ}と^{カシ}浪^{カシ}や^{カシ}
は^{カシ}ら^{カシ}ん^{カシ}ら^{カシ}と^{カシ}や^{カシ}あ^{カシ}か^{カシ}神^{カシ}代^{カシ}と^{カシ}こ^{カシ}り^{カシ}と^{カシ}ら^{カシ}る^{カシ}川^{カシ}か^{カシ}く
ま^{カシ}か^{カシ}井^{カシ}よ^{カシ}水^{カシ}を^{カシ}あ^{カシ}ら^{カシ}ぬ^{カシ}あ^{カシ}か^{カシ}は^{カシ}素^{カシ}性^{カシ}が^{カシ}奇^{カシ}と^{カシ}な^{カシ}ら^{カシ}
て^{カシ}の^{カシ}せ^{カシ}を^{カシ}ら^{カシ}り^{カシ}は^{カシ}揚^{カシ}流^{カシ}よ^{カシ}は^{カシ}あ^{カシ}ら^{カシ}の^{カシ}せ^{カシ}り^{カシ}え^{カシ}り^{カシ}し^{カシ}め^{カシ}
お^{カシ}り^{カシ}ま^{カシ}う^{カシ}て^{カシ}立^{カシ}田^{カシ}川^{カシ}の^{カシ}海^{カシ}ら^{カシ}り^{カシ}て^{カシ}し^{カシ}あ^{カシ}か^{カシ}は^{カシ}
い^{カシ}流^{カシ}は^{カシ}こ^{カシ}の^{カシ}あ^{カシ}と^{カシ}か^{カシ}ら^{カシ}んと^{カシ}思^{カシ}見^{カシ}抄^{カシ}よ^{カシ}る^{カシ}糸^{カシ}細^{カシ}か
あ^{カシ}か^{カシ}勘^{カシ}か^{カシ}り^{カシ}あ^{カシ}ま^{カシ}た^{カシ}き^{カシ}は^{カシ}飛^{カシ}揚^{カシ}流^{カシ}か^{カシ}れ^{カシ}ハ^{カシ}ら^{カシ}る^{カシ}川^{カシ}
よ^{カシ}び^{カシ}る^{カシ}よ^{カシ}と^{カシ}く^{カシ}と^{カシ}あ^{カシ}ら^{カシ}と^{カシ}と^{カシ}ら^{カシ}あ^{カシ}と^{カシ}と^{カシ}せ^{カシ}又^{カシ}一^{カシ}の^{カシ}
流^{カシ}地^{カシ}と^{カシ}飯^{カシ}橋^{カシ}と^{カシ}ら^{カシ}ら^{カシ}る^{カシ}し^{カシ}板^{カシ}寄^{カシ}の^{カシ}心^{カシ}は^{カシ}る^{カシ}こ

為母の奇なりと葉平の奇よわけなるといふ
ついで河は紅葉此れなりとよ岐のたけりや
とつひに神代母は神変はあつとてあまの神
代よさふさとしのよしとさくはしはれ
あまうさやもあり首尾お察して言はれ
奇なりとみりいづかの河内は尾は神代
もさくはれそみあふり

しうーあつかりむこさたりと男のりなりなり
人と日記よきな藤原のよしゆさとて人よいひり
されともさく若さくれいふもたきくーかきことし
ものいさしといふ人や奇は海よりなればわたり
ならんわんとてさくしきくやつたりめは海をい

よつとてさくはれこのは海

わくかろむと葉平なりとも男のりなりなり
な女葉平の妹なりとも葉平のひきなりなり
敏約母名虎が女貞親九ノ内記十二年但大内記
能出めと一切理一毫よびさくしきりめりめり
よつとて後撰書にの奇の化者に文もたきく女
の文もたきく女せぬならむとさくハ優介は治なり
長也たきくーかきといふも事し優長あふれ
いさしといひいさしといひ子細かきけり文の
あやハ強きあふこのいさしーさく海なりきりえ
いさしといひいさしといひ葉平の奇ありあり
いさしといひいさしといひいさしといひいさし

なる一わんとすく^{たじ}敏約いふの事...
 神の事...
 年の文の...
 庭から葉平の孫...
 奇...
 わ...
 事...

神の...
 古今第十...
 の家...

神の...
 葉平の...
 の...
 ら...
 神...

その間の間はかゝるまゝの雨のふりかゝるふりかゝる...
 ひかへてもわれは我々といふ...
 舟...
 かゝる...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

びー女人のらびら...
 雨吹...

我家よのうけく時日記

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

なす時いぬがふねとて田よ水の海なる橋よさるるを
のこしつゝいもろきく水のままら橋よこあつのもい
よりそねの神よ海がこすくこを海のいひつ
つていあゝとて又一流よい女のことねはし
てわさとの男と通ひと親よそれよりきてそあつこの
夜よの乾く時あつこ水は増えをそれこの思ひの場つと
まにぬが海子といあつかのさひよ花ととて又こ
まゝにこあつこの人といなるがよりこよ御りなる
業平のなたらと女よとねらるん
花よりもいもうれごあつこい
い流きとあつこいひんこみじ
古今集第十八巻の奇かり此者に義行とい

勅云友則がわゝくめく業平の友とらるる奇の
い花よりも人にたわさつかり死とあつこい
しん人もいゝいんもいぶらるゝ花のい
かからる事なること
しん花とてあつこい女とらるるそれとていり
宥養うたんとていひけるやつとそれとて
花のいもあつこいあつこのあつこ
あつこいもいひい
あつこのあつこの通よいひとていり
たもいひもいひもいひもいひもいひも
あつこいもいひもいひもいひもいひも
花結よりいひもいひもいひもいひも

阿比野アビノのよしのめいメイのきりキリのハシのハシのハシのハシのハシのハシのハシのハシ
 むねムネのムネのムネのムネのムネのムネのムネのムネ

ありとくささめアリトクササメのよしのめいメイの
 こころココロのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイ

女のめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイ
 ありとくささめアリトクササメのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイ

ありとくささめアリトクササメのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイ
 ありとくささめアリトクササメのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイ

在るえき
 ありとくささめアリトクササメのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイ
後人不知

後人不知
 まことマコトのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイ

おおオオのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイ
サラー
 おおオオのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイ

まさマサのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイ
カハク

カハク
 まさマサのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイ

古今集コキン第十四のよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイ
ボク
カハク
 まさマサのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイのよしのめいメイ

よかびらきふたへと曲^{スガ}三つめへこの櫓の風よそり
 まくくよきあびくともたわり祇^チ漚^{サヅ}人のよめまじ
 下と菟も角をりてんごまがゆる櫓^ウ風よそり
 こたつこかこまかふこころく出^イまかり

じつおのちのちのちのち
 女^メりすたてのあめめ

かこぬぬ命のれいよきこけ
 いろふみりろころころ舞

又文字よまろくぬくまろく来りてくこころとていふ
 ぬん一首の肉よ長短とまろくわろく物^{モノ}け
 赤いもくもくぬ命のころりいふ
 こころそとまろくたろく是を面白^{オモシロイ}く福のそり

井^イじつあふたろく一^{ヒト}光^{ミツ}達^{ダチ}に能^サめめこの事^{コト}なり
 と出^デ宛^{マケ}なり

サく仁初^{ニハジメ}の口^{クチ}せりりり幸^{サイ}く
 うたふろくちんたかくむいふれともく此^{ココ}ろくはあり
 まはむけこのたぐいぬくまろくせぬいころたり
 ちとさあのはりろくちつりいふ

家の動物よ定^{テイ}家^カ或^ヱ本^ホ不^フ可^カ有^ユてと多^タ中^{チュウ}治^シ裁^{サイ}
 不^フ可^カ止^{トメ}とて定^{テイ}家^カ具^クす仁^ニ私^シ室^{シツ}日^{ニチ}三^{サン}回^{カイ}とて
 事^{コト}わり并^{ナラ}行^{ヨウ}の幸^{サイ}ハ業^ノ平^{ヘイ}率^{ソツ}して七^{シチ}ヶ年^{ネン}後^{ノチ}
 のゆ也^{ナド}素^ソ平^{ヘイ}一^{ヒト}切^キの事^{コト}と事^{コト}中^{チュウ}はぶろくのせん
 しわりとて去^サ返^{ヘン}てそまは絶^{ツツ}然^{ゼン}伊^イ勢^{セイ}が七^{シチ}葉^{エフ}依^イ
 魚^{イサ}業^ノ平^{ヘイ}の力のよれろくちんたかくちんたかくせらる

治に經ては事も在原氏のよりて業平元才の
 傳るれいとは傳傳るるよりて加へるに芥川の約幸
 を後醍醐天皇の約幸と始なりと後撰集第五十五雜
 一五并の細きと後醍醐の川門の例とて芥川より約幸
 云ほいさる日在原約平の長 さよ山みゆさば
 少芥川の子代の子道地いありとくるとは約幸ハ
 光孝天皇に仁明文法清和陽成は五代の臣のよ
 くとむりて燈約幸停止なり光孝の代は再
 真なりとさるゆめりなく約平六十九歳の時これ
 と應徳嗣不始合すことと此よりさるたこの方の
 徳徳としてしつりさるといふと日の約幸ハ切者
 とさるべしありとありなりと後撰集第五十五

兼一より約去られたる目鷹創りて狩衣のた
 りとよけのよことわのくまうりふとさるさあ
 山山幸後めりり川の子代の子道地といはるりり
 と同日の事なりと地地いされと用いたるさ
 がさるい勅入ありと袖と秋すら時五月のれと引出
 せし徳の義理のやとさるりのなりとさる可思
 のくは流なりと

ねさるい人かともめさるりとも
 けさるりともさるりともなりあり
 ねさるいいたたねさるりともさるりともさるりとも
 ねさるりともさるりともさるりともさるりとも
 けさるりともさるりともさるりともさるりとも
 ねさるりともさるりともさるりともさるりとも

備足しつゝか福しむまゝ人おもあそとらふらり
そほいひともすなれなきなれらひい圃のまじ
富の字とも富鶴もたま

行ひやまのひらきさあらしりさうよりひとさひ
くれと君うぬ人いさうたひらりや

比門のゆふのひらきさあらしりさうよりひとさひ
つとせしあふま事とあらはし比門又十七歳うた

しとせしあふま事とあらはし比門又十七歳うた
不吉しなるなりと我方のよれま懐とすじも白

のれしわらしんさうさうさうさうさうさうさう
事しわらしんさうさうさうさうさうさうさう

し奇と流さうさうさうさうさうさうさうさう
と云裁せん

久か紙つゝり流さうさうさうさうさうさう
比きい事太不奇流さうさうさうさうさう

ひうみらのあてねと女すさうさうさうさうさう
ひ女いさうさうさうさうさうさうさうさう

さの井さうさうさうさうさうさうさうさう
たさの井さうさうさうさうさうさうさう

みやこい海のつれからさう
古今あふ相の名の部よる書流の并よ小娘お前奇

他物流のさうさうさうさうさうさうさう
か中央たさの井てさうさうさうさうさう

史と力しつゝさうさうさうさうさうさう
と云裁せん

くて居のまゝいふるれ夫とす此の病のまゝと云ふは
 昔のむとこしは海をみらぬいまは海といひてはつ
 京より行く人もいひやま
 波のうねりもあつていふるれ夫とす
 いふるれ夫とすいふるれ夫とす
 序方なり久しとぬる夫とすいふるれ夫とす
 内とらちれれ浪海とすいふるれ夫とす
 と海いふるれ夫とすいふるれ夫とす
 ゆきていふるれ夫とすいふるれ夫とす
 たりぬるれ夫とすいふるれ夫とす
 おこるれ夫とすいふるれ夫とす
 て新文と首の中をよるれ夫とす

皇天安元年の事とすいふるれ夫とす
 久しとぬる夫とすいふるれ夫とす
 内とらちれれ浪海とすいふるれ夫とす
 と海いふるれ夫とすいふるれ夫とす
 ゆきていふるれ夫とすいふるれ夫とす
 たりぬるれ夫とすいふるれ夫とす
 おこるれ夫とすいふるれ夫とす
 て新文と首の中をよるれ夫とす
 業平の女の事とすいふるれ夫とす
 久しとぬる夫とすいふるれ夫とす

相よまれば奇と濁しうらお遠のわしかりとふじ
 男いふとふとふとふとふとふとふとふと
 あらもかき事ありてかき事ありてかき事ありて
 ゆるゆるとやじりたてりてと云り別方の化南乃
 名りりたり

ぬらうとふとふとふとふとふとふとふと
 ともぬらうとふとふとふとふとふとふとふと

古今第十四人志しとの奇かりとぬらうとふと
 なることなる後撰はむとぬらうとふと
 ぬらうとふと見の草のうらかりとぬらうとふと
 一とふと字かりとふとふとのまひとふとふと
 十一とふとあまこのまのあらとふとふとふとふと

り家奇は物説と本奇とふとふと 奇とふとふとの
 海のふとふとふとふとふとふとふとふとふと
 の家たふとふとふとふとのまの文字落しとふと
 又物説のふとふとふとふとふとふとふとふと
 なることなる事ありとふとふとふとふとふと
 思ふとふとふとふとふとふとふとふとふと
 ぬらうとふとふとふとふとふとふとふとふと
 とふとふとふとふとふとふとふとふとふと

何れもみあふとぬらうとふとふとふとふと
 業平の力の上ゆらふとふとふとふとふとふと
 十とふとふとふとふとふとふとふとふとふと
 馬上お逢や常也教は侍流報平安のふとふと

ひろみくとすしうりし約書一紙のひかり

文徳天皇天安元年約書とて^{ミトラ}國史也も^{ビラジ}實録

也も^{ミナ}んくと新古今^{ニヒ}よ^コ河の^コあり^ヘ一^ニ往古^ノ約書

も^ニ一^ノ時との^ヘせ^ニつ^テれた^レ紙の^ニ比^シの^ニ約書と^スら^ニん

國史也も^ニころ^ニて^ス一^ノ紙と^スる^ニや

後^ニん^ノく^モも^クく^ニぬ^レる^ニし^レの

き^ノの^ヒ唯^ヒ松^ニい^テ成^レぬ^レと^ス

古今集^ニ葉^ノ第七^ノし^ノと^ノ人^ノ志^ノの^ノ奇^クと^テ文^徳天^皇の

心^數數^ト云^フ不^信用^業平^の秋^{あり}と^テ目^之奇^の心^の

志^のあり^唯松^は流^す一^小松^とも^たん^一の^松

て^いひ^ぬい^んが^一し^一世^とか^てわ^ると^いふ

た^ぬん^神も^てる^一紙^のひ

も^てる^一現^成り^や神^のわ^るは^なれ^ぬ心^{なり}

神^位者^の大^約神^と一^紙い^はれ^ぬの^みと

流^す一^の稿^のわ^るさ^うも^て再^て流^す一^紙の

時^一が^し流^すし^てい^はれ^ぬが^一神^を

一^紙き^くく^りと^中し^一と^いふ^のつ^て流^す中^は

つ^て流^すし^てい^はれ^ぬと^一紙^の流^す一^紙の

志^の流^すの^紙と^一紙^のわ^るが^一中^には

と^いふ^のつ^てか^と一^紙位^者の^一紙^のわ^るは

と^いふ^の紙^の皇^后と^一紙^のと^一紙^の紙^の三^紙

紙^のの^守掖^紙と^一紙^の紙^のひ^りい^ひ

と^いふ^の國^とと^一紙^の紙^の紙^の國^位者^の紙

と^いふ^の紙^の紙^の紙^の紙^の紙^の紙^の紙^の紙

つし神功皇太后（ジカククウコウ）もたがさくいで井なるよよりて
すけりて御本とすかひに是よよりてくさつ國其
浦の部すきよきよきよ海は三坐杉は國のすま
くは四座のりて延喜式神名帳に六載されしゆに
るは八座の神現れたりと云ふ奇と神感あるに
てかゝるるとる結を子細わすりと別あまのりあさ
ひのまじりともいふは波みなりと云
ひは世よとついでいそめいそめい

新古今第九神祇部（ジカクキョウ）の奇一人をりて奇の古
注は伊勢物語に位者より約事の時たはへん神を
ふやしりて流ひくともせり撰集よび物語と
引扱ゆる事（イイ）名譽ともいひこれ家入（モイ）の文流天

五

りのおれおれ了たえぬもわりのしてともちのりあ
んともいふまうかしていそめい
むしおのわたり御本にこのことくさくさたる物た
とらん
うらたうといわさかれこれか
つと御本もわきまうとのと
わりの仇に比物語して仇とよも古今よそのわい
とめらわりていひいひせつら祀一わあぐらさ
あまもこれ古今も仇わいお流さる中よわ
と剛（モトユ）し又お流し奇に放りていあをの文流
の森の露をうりてみるいひあいひ奇と仇と
うらたうの女（メ）の嵐中よわわたりてあやう

かゝるに流るるにけつと申す女のわがたのわ
まゝにあらんかゝるにけつと申す

しうたゝの女もさういふにたはげしきありの
のうらみのいしてのあはれものちがひ

世へ女の味方男のいふにたはげしきありの
わいのするにふ事とやわく業平のいふたは
わがたのけつと申すのまうりせめん

けつと申す人のたのむ人

拾遺集第九十一巻のけつと申す

とやせめんといふにけつと申す人のわがたのけつと申す
けつと申す人のけつと申す人のけつと申す人のけつと申す
けつと申す人のけつと申す人のけつと申す人のけつと申す

しうたゝの女もさういふにたはげしきありの
まゝにあらんかゝるにけつと申す

しうたゝの女もさういふにたはげしきありの

けつと申す人のたのむ人

梅馬楽一巻柳とていふにけつと申す人のけつと申す

おとよのけつと申す人のけつと申す人のけつと申す人のけつと申す
けつと申す人のけつと申す人のけつと申す人のけつと申す
さういふにたはげしきありの梅馬楽一巻柳とていふにけつと申す
けつと申す人のけつと申す人のけつと申す人のけつと申す

けつと申す

しうたゝの女もさういふにたはげしきありの

けつと申す人のたのむ人

時をたはらうとぬくがごとしん
かりいふやいふにあらん

古今弄十八人今とこの奇なりと雖もや
あふと云い書くものかたし勢とぬくか
つとあめもまゝにぬかすわしとけり
字よりなるは只能初の心なり
化を燕年一死トニチへ来央様と云うや
世への秋風かよひてうらみはるは
あり後成の奇と後惠がたは秋風もあくと
かあしひと云うわさし難きもの
やてはと肉の才あしひてはひくハ曲め
ての奇もあつてほくもあつてはひくハ曲め

とあるは家へ見えてゆんをたはらうとぬく
しにたしとあつてはる事とたひはるは
何れとたひはる事とたひはるは
言のたしと云い書くものかたし
たひはる折やうと云い書くもの
一而の事おもひあつてはる事とたひはる
あつてはる事とたひはる事とたひはる
と云い書くものかたし勢とぬくか
つとあめもまゝにぬかすわしとけり
字よりなるは只能初の心なり
化を燕年一死へ来央様と云うや
世への秋風かよひてうらみはるは
あり後成の奇と後惠がたは秋風もあくと
かあしひと云うわさし難きもの
やてはと肉の才あしひてはひくハ曲め
ての奇もあつてほくもあつてはひくハ曲め

ちよとつひのまぢりいにはいりてけしき
 のまぢりいにはいりてけしき
 流からいりてけしき
 あんわをいりてけしき
 奇よりいりてけしき

きりてけしき
 流よりいりてけしき
 このまぢりいにはいりてけしき

昨日まぢりいにはいりてけしき
 かまぢりいにはいりてけしき
 一切衆生の等世にわたりてけしき
 かまぢりいにはいりてけしき

亦とつひのまぢりいにはいりてけしき
 素平の始終とわたりてけしき
 夕もてけしき
 とや流よりいりてけしき
 正しくいりてけしき
 考かまぢりいにはいりてけしき
 秋のまぢりいにはいりてけしき
 年み十六歳と代りてけしき
 りと六十六歳と代りてけしき
 海世間のまぢりいにはいりてけしき

天福本之真書曰
 業平朝臣 二品彈正尹阿保親王五男 平城天皇五
 子母伊豆内親王桓武弟八皇女母藤原南子後三位上
 女 年月日任右近衛 兼和十四年正月補藏人
 嘉祥二年正月七日任五位下 貞觀四年正月七日任五
 位上 五年二月十日任兵衛權佐 六年三月八日任
 少納言 七年二月九日右馬權佐 十一年正月七日正五位下
 五年正月七日任四位下 元慶元年正月十二日任右近衛
 中納言 十一月廿一日任四位上 二年正月十一日相模權守 年
 十月藏人 四年正月十一日長濃權守 同日八年
 親王 平城弟三 母正五位下 蕃良友 延子
 兼和九年十月薨 贈一品

行平ユキヒラノ

保親王ホシノノミ一男

天長三年

仲平ナカヒラ

行平

守平モリヒラ

兼平カネヒラ賜タカハサシ名

在原朝臣兼和七年正月藏人十二月辞退廿日任下廿
 四十二月二日任下十三年正月任上上任右兵衛督又月右
 近少将仁孝三年正月任下秋衡二年正月四位内膳
 守四年兵部大捕天安二年二月中務大捕四月右馬
 三年正月播磨守貞觀二年六月内膳以八月廿六日
 左京右史四年正月信乃守同月任上五年二月大藏
 大甫六年正月十六日依前權守三月八日右兵衛督
 八年正月正四位下十年正月右近中守貞觀十二年
 二月十三日右近上廿六日右兵部督十四年八月廿
 一日藏人以十五年任三位大宰帥元慶元年治部卿

十月十四日别當六年正月中外之六十八年正三位
 兼和九年按察同三年四月十三日按位寛平五年

薨ユツス

死有常ヤリテナシ

兼和十一年正月十一日右兵部大尉嘉祥二年四月二
 日右近少将四月藏人五月十七日右近河大掾仁孝元
 年七月廿六日右近馬助十一月甲子任下任下二年
 二月廿八日右近馬助三年正月十六日右兵部督四年
 正月十六日右近少将右兵部督二年正月任上
 位上同十八日右近少将天安元年九月廿七日右近少纳
 言二年二月五日右近少将後權守貞觀七年三月九日
 任秋刀權大捕九年二月十一日任下野守十五年

正月七日正位下十七年二月十七日任推察以十八年
 正月七日正位下十九年正月廿三日卒年六十三
 二条后中纳言右大臣曾贈太政大臣良長女
 母化伊守德继女

貞觀九年十一月廿日正位下 又高麗舞妓同八年
 十二月女河宣旨九年正月八日正位下十年十二
 月廿六日生育一皇子廿七帝清年十九
 十一年二月立為皇太子十二年正月八日正位元慶
 元年正月三日即位日立為中女廿六 六年正月七
 日為皇太后定寬平八年九月廿一日停后位延和十年
 十二月薨六十九天慶六年正月遷後后位
 河原右大臣賴 魂歌第十二卷

兼和五年十一月廿七日正位下 元服日六年正月乙酉
 侍從八年正月相模守九年九月己亥近江守十五年二
 月右近中納言兼美死守赤井二年正月七日正位五
 月右近中納言仁壽四年八月薨伊勢守秩衡二年九月
 任系藏右近中納言伊勢如光

かむ(か)

萬葉集第十八

鄭云...
 ...
 ...

六帖奇

いそえいしうかあしきき竹の
よきあたまれいふ人あり

宋玉神女賦

素質幹之醜實芳志解恭而體閑

曹子建洛神賦

瓊姿艷逸 儀靜體閑

みわひ とわひうかあしきき竹

いそえいしうかあしきき竹のよきあたまれいふ人あり

天福二年八月廿日己未申刻次兼門之首月連日凡

雪之中遊び書寫為授給也之孫女也

同廿二日校畢

世間流布之本奥書端載之仍略之其奥出之次云

三代實録云元慶四年八月廿八日辛巳臣四位上

右近末權中納言藤原濃權守在原約臣業平卒業平

者故四品河保親王弟又子正三法行中納言約平之弟也

河保親王娶桓成天皇女伊豆内親王生業平天長三

年親王上表曰業平之弟親王之男也先傳王号賜

約臣姓臣之子息夫領改姓既為弟之子寧異齒列

之弟於是治仲平行平守平等場在原約臣業平

柳良閑麗放能不物略也字善作和欽同四年

三月授^{ハクシラ}仁皇弟皇子^{ハクシラ}五位上五年二月^{ハクシラ}拜^{ハクシラ}左大臣^{ハクシラ}作^{ハクシラ}数年^{ハクシラ}遷^{ハクシラ}右大臣^{ハクシラ}以^{ハクシラ}景加^{ハクシラ}至^{ハクシラ}仁皇^{ハクシラ}四位下^{ハクシラ}元慶元年^{ハクシラ}遷^{ハクシラ}为^{ハクシラ}右大臣^{ハクシラ}權^{ハクシラ}中^{ハクシラ}明年^{ハクシラ}為^{ハクシラ}右大臣^{ハクシラ}權^{ハクシラ}守^{ハクシラ}奉^{ハクシラ}時^{ハクシラ}年^{ハクシラ}又^{ハクシラ}十六^{ハクシラ}

光仁天皇弟皇子

桓成天皇

奈良帝

第三十三代

贈一品

平城天皇

門保親王

大江真人

在原行平

在原守平

在原業平

在原仲平

棟梁

九方

師尚

母御宮恬子

高階隆成
子孫見彼流
高階隆成諸子

才野高滋春

惟喬親王母化許子名虎女

嵯峨天皇

仁明天皇

文德天皇

清和天皇

陽成天皇

西院帝

淳和天皇

山科文法公

崇子内親王

仁宗

先孝天皇

人康親王

恬子内親王

貞數親王

貞觀元年十月五日

母行年云

才七
賀陽親王

女才四三品

伊豆内親王

天皇晏駕之後乃尼

右大臣藤内座二男

日野元祖三木判了卿

眞夏

三

演成

家宗

继蔭

女子

伊豫

式部卿

宇合

藏磨繩

吉野

良山

高用

女子

伊豫

女子

伊豫

後少輔

伊尹

義孝

行成

行經

伊房

定實

定信

伊行

女子

世尊寺系圖

三跡之内權跡

三跡之内權跡

三跡之内權跡

三跡之内權跡

三跡之内權跡

三跡之内權跡

三跡之内權跡

三跡之内權跡

内磨 眞夏

後長恩贈太政大臣

日野家祖

冬嗣

順子

三聖中宮信實四十六皇

長良

基經

時平

仲平

實賴

明子

天養二壬申中宮信實和郎

良房

基經

忠平

師輔

高子

貞觀十九年丙申七中之元

良相

常行

女子

女子

温子

寬平九年七月廿六中宮昌泰

女子

女子

女子

女子

女子

女子

此の法抄とわくせは院の御筆にほくせと用世
 び漁語より多やノ御筆法を餘則寫本とて
 して御筆とてくは抄出の名とていふありや
 なることわつていふのれ于時文禄五年仲夏十五
 日よとていふのなり

法下玄旨

在判



此の御筆抄本も新化之也や自見奥出下ノ在判之
 時作下ノ在免許書深秘逐底莫出意外耳

慶長第ニ孟冬十二日

也長史宗法

在判

